

問8. 学校側と調整するにあたり工夫していることはありますか。(自由記述)

〈事前調整等〉
・何度も打合せを行い、打合せ時間も16時30分から開始している。
・初めて担当する先生の際は、理解するまで打ち合わせを行う。
・年度初めに各村内の校長連絡会を実施し、年間業務内容の確認を行う。連絡会終了後、各校長から担当教諭に連絡事項を伝え、その後、社協担当と各学校ボランティア教諭との連絡・調整を行い事業実施する。
・赤い羽根共同募金活動を利用して学校側と調整している。
・連絡調整や打合せをなるべくこまめに行うようにしている。
・学校側の求めること、こちらの伝えたいことなどをしっかり話し合う。
・年2回の連絡会の実施。
・先生の負担感の解消に気をつけている。
・事前に福祉体験学習実施予定表を提出してもらい、予定表を確認した上で、担当教諭との打ち合わせ等を行っている。 ↓ ※実施日の希望日時(第3希望まで)やテーマ、内容、子どもたちに伝えたいこと等を記入してもらっている。
・今年度は、体験に入る前に学校の教員向けの福祉体験講座を実施。事前にやり方や目的、振り返りの内容等について、共通理解を出来る機会を設けた。
・出来るだけ先方へ出向き、話し合いを行っている。
・事前調整の時間を充分にとるようにしている。
・社協側の「子どもたちに伝えたい事・考えてもらいたい事」を箇条書きでまとめている資料を事前調整の段階で渡している。
・事前の打ち合わせは電話やFAXでのやりとりではなく、顔合わせも兼ね必ずお会いして調整している。
・事前調整をしたがらない先生が多いが、学校側のねらいや社協側の伝えたいことなどは必ず確認が必要と連絡し、なかば強引に時間を作ってもらっている。その中で、福祉教育についての相方の考えなどを話、お互い協力できる環境作りをする。

〈プログラムの内容や進め方等について〉
・社協が全て行うのではなく、学校側も一緒になって行うように、空いている先生への協力など、学校側へお願いしている。
・体験学習の前に、DVD(しあわせいっぱい)の町)沖縄福祉教育研究所の視聴を提案している。 (いろいろな障害を持った方々の活動内容、バリアフリーやノーマライゼーションについての説明などが小学生にわかるように収録されている)
・学校側の求めること、こちらの伝えたいことなどをしっかり話し合う。
・プログラムや会場図などを作成し、流れなどをわかりやすく説明している。
・体験学習前に、一緒にコースや現場確認を行う。
・学校側の意見を聞きながら、社協側として伝えたい事などを話すようにしている。
・学校教諭中心に教育プログラム構成するよう心がけている。
・ボランティアコーディネーターとCSWで話しを聞き地域課題とリンクできるようなプログラムも心がけている。
・学校側は「前年度同様にお願したい」と依頼があるので、なるべく定期的に情報交換をし、学校側のねらいや意図に合わせたプログラムを実施していきたい。
・事前のグループ分け。学校内の施設を利用しての体験等。

学校と調整する上で工夫している事として、「事前調整段階での顔合わせを行うことを心がけている」という意見が多く挙げられている。また、「担当教諭(学校側)の意見を引き出しながらプログラムを構成するように心がけている」という意見も挙がっていた。

問9. 今後貴社協が学校側と福祉教育プログラムを企画・実施していく中で、学校に求めること、期待すること等はありますか。(自由記述)

〈学校側に求める事〉
・学校の年間計画に社協への福祉教育を組み入れてもらいたい。
・今は、アイマスク・車いす介助体験が主となっているが、学校側から希望があれば「社協とは何か？」ということで講話をもっと入れていきたいと思う。
・実施する際は、先生方にもできるだけ児童生徒と一緒に体験してほしい。
・年に1、2回程度で終わるのではなく、通年かけて長期的に実施計画を立ててほしい。
・社協をもっと活用してほしい。・学校独自の企画をもっと出してほしい。
・担当の先生任せにせず、学校として取り組む体制づくり、現状は担当の先生の負担感が大きい。
・中学校は授業の中に福祉教育を取り入れることが難しく、担当の先生がとても苦労している。中学校での福祉教育実施の意義は大きいと感じているので、どうにか取り組める体制づくりをしてほしい。
・1年間を通して、福祉教育プログラム等を先生と一緒に企画・実施できればと思う。
・学校での福祉体験学習をするに辺り、先生向けの事前学習に参加してもらいたい。
・福祉学習の目的や振り返りの方法と内容について、共通理解したい。
・福祉学習の際に、社協を取り入れてもらいたい(未実施の学校があるため)。
・普通の授業の中での取り組み方法を先生方と一緒に検討してみたい。
・対象学年の先生方で事前打ち合わせを行ってもらい、希望を複数あげておいていただきたい。
・学習目標や目的の共有。
・学校側が求めている福祉教育が知りたい。
・福祉教育の目的やねらいを共有していきたい。

〈プログラムの内容等について〉
・内容が車いす・アイマスクに偏っているので、新しいプログラムを考えている必要がある。
・学校側の学習目的や実施したいプログラムの要求に沿って企画等を行っていききたい。また、今後も学校側に福祉教育が必要不可欠と感じる企画・運営を実施していきたい。
・地域住民と連携したプログラムの企画・実施。
・今後は、体験型ではなく社協側としても新しいプログラムを提案できるようにしたい。そのために先生方とのコミュニケーションをとっていききたいと考えている。
・学校内だけの福祉教育ではなく、地域(地域住民、福祉施設など)を巻き込んだ福祉教育を展開していきたい。
・社協の関わりは、体験に特化している面があるので、体験後も継続的に関わっていききたい。
・福祉教育実施後に、「自分達にできる事」として考えてもらい、ボランティア活動実施まで学校側と協力して実施したい。
・先生方も福祉教育に関わる上で、先生方向けの勉強会を開いたらその後の福祉教育プログラムの企画・実施の内容を同じ意識を持って作成でき、子どもたちへの継続した地域活動へつなげていけるのでは…と思う。
・実践後の学びが企画できてない。

学校に求めることでは、「年間を通しての福祉教育プログラムの実施」など、学校として取組体制づくりをしてほしいとの意見が出ている。福祉教育プログラムの内容で、地域を巻き込んだ福祉教育や福祉教育後の継続的な企画の実施など、社協側として考えるべき意見もでていた。